



陽だまりギャラリーから「秋の実りと紅葉」

皮膚排泄ケア専従看護師 芝 美佐子

朝晩が少し肌寒く感じる今日この頃・・・秋めいた風が心地よく、いよいよ季節は秋本番といった雰囲気になってきます。そして、山々が紅色に染まり、例年、10月下旬から12月上旬が紅葉のシーズンです。赤や黄などに色づいた樹木や景観を觀賞し、季節の移ろいや情緒を味わう・・・日本の四季がもたらす、自然の芸術ではないでしょうか。雄大な自然の紅葉には敵いませんが、緩和ケア病棟のブチ紅葉も愛でていただきたいです。

基本理念 思いやりのある医療を実践します。

あなたの権利を尊重し
あなたを中心とした
あなたに適した医療を提供します

1. プライバシーの尊重を実践します。
2. 親切・丁寧なケアを実践します。
3. わかりやすい説明と納得による診断治療を実践します。
4. 地域医療機関との連携強化を図ります。
5. 自ら研鑽に努め、良質な医療の提供に役立てます。



南和歌山医療センターの基本理念である

『思いやりのある医療を実践します』に基づき、

1. 明るく (A)
2. 挨拶があり (A)
3. 愛のある (A)
4. アカウンタビリティ (納得説明義務) (A)

の4つの頭文字のAを基本デザインとしています。

これは丸みをおびた形でやさしさを表現し、4つの理念が集まることで、空 (明るい未来) に向かって羽ばたく鳥を表しています。4つのカラーは黄色が明るさ、赤が愛、青と緑は南和歌山の自然の象徴である綺麗な海と、山を表現し、南和歌山医療センターの環境の良さもアピールしています。

- 南和歌山医療センターは受診者の皆様と病院の双方がお互いに尊敬し、協力し合うことが安全かつ良質な医療の提供につながるものと考えます。受診者の皆様には以下の事項に合意し、守っていただかなくてはなりません。
1. 安全かつ最善の診療のためにご自身の身体や必要事項に関する情報を、私たち職員に正確に伝えていただくこと
 2. 検査・治療は説明を受け、納得・合意の上で受けていただくこと
 3. 当院は近隣の医療機関と連携して専門性の高い医療を提供する急性期病院である。救命救急、がんに対する医療と緩和ケアを提供する病院の役割をご理解の上、診療体制維持に協力いただくこと
 4. 病院内では静粛を保ち、院内のルールに従っていただき、他の来院者や入院中の方に迷惑をかけることのないよう配慮していただくこと
 5. 病院内ではお互いに礼儀正しく思いやりのある態度で接していただくこと
 6. 医療費の支払い請求を受けたときは遅滞なくお支払いいただくこと

- 患者としてあなたには
1. 良質で公平な医療を受けられる権利があります。
 2. 人格や価値観を尊重される権利があります。
 3. 個人情報を守られる権利があります。
 4. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
 5. 治療法を選択できる権利があります。
 6. 治療法について、第三者の意見を聞くことが出来る権利があります。
 7. 貴方の診療記録の開示を求める権利があります。

いよいよ始動!

3T MRI装置2台体制

南和歌山医療センターでは、7月から始めたMRI装置の更新工事が完了し、10月1日より稼働を始めました。

今回のMRI装置の更新で、当院では3テスラ装置2台体制で検査を実施しています。3テスラ装置2台を運用する病院は和歌山県下で2番目、紀南地区では当院が初めてになります。

新しいMRI装置は、PHILIPS社製Ingenia3.0T Omega HPで、デジタルコイルの採用、最新のシーケンスへの対応など、従来の1.5テスラ装置より数段高度な仕様になっています。

又、ガントリーのボア一部直径（患者さんが検査時に入る、トンネル状の部分の大きさ）が従来の60センチから70センチになり、圧迫感が少し軽減されるなど、患者さんにも優しい設計になった機種です。

MRI更新に当たって、当院の医師の意見として「1.5テスラの装置より3テスラのMRI装置の方が診やすい」という評価が多くありました。そこで、古くから使われていた1.5テスラMRI装置を、3テスラMRI装置に更新することになりました。

これからは、脳ドックなどを含めて、予約待ちを短くしながらより高度で「診やすい」画像が提供できると考えています。

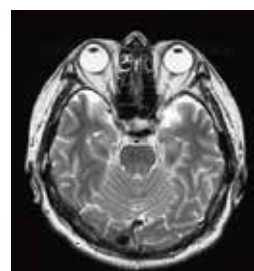
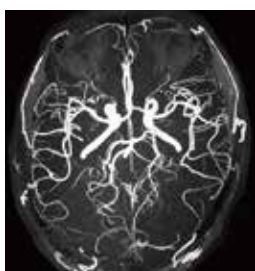
これからも地域医療に貢献できるように、南和歌山医療センターは進化して行きますので、ご支援の程よろしくお願い致します。



新規導入装置：
PHILIPS社製 3.0テスラ MRI
(Ingenia3.0T Omega HP)



新規導入MRIの運び入れ作業の様子



新規導入MRIの画像

第26回 地域医療連携カンファレンス開催報告



日頃は当院の業務に格別のご配慮を頂き厚く御礼申し上げます。この度、令和3年10月2日（土）に「第26回地域医療連携カンファレンス」をガーデンホテル ハナヨにおいて開催いたしました。

今回は「がん患者との在宅医療について」を主題として、特別講演とパネルディスカッションの二部構成で開催させていただきました。

今回は、コロナウィルス感染拡大に伴い都府県に発令された蔓延防止法が解除された直後であり、まだまだ予断ならない状況下となっております。そこで、当院では初めての会場参加とZOOM視聴を併用し開催いたしました。

会場は、ソーシャルディスタンスを保つため、座席数を制限させて頂き、53名の参加となりました。ZOOM視聴66名と合わせて119名の方々にご参加頂きました。



第一部では、和歌山市において在宅医療を積極的に推進されておられる たぶせ在宅クリニック院長 田伏 弘行先生を講師に迎え、特別講演「当クリニックの訪問診療のご紹介」～がんの在宅看取りは難しい？ 難しくない？～のお話をお伺いしました。病院医療と在宅医療の違いとは何か、また、在宅医療では、【「その人が大切にしていること」を最後まで尊重すること】など、病院勤務しか経験のない私が知らない在宅医療ならではの関わり方や患者さんへのサポートの方法について学ぶことができました。

そして、第二部では、パネルディスカッション「がん患者の在宅医療についての検討」～希望する場所で過ごせるために～をテーマに5名のパネリストの先生方をお迎えして、ディスカッションを行いました。

それぞれの職種の立場から在宅医療に向き合い、今までの活動を振り返りお話をいただく中で、あらためて多職種連携の大切さに気づかせて頂きました。それは、連携する際には患者・家族を中心として考えること、また、それぞれの職種がお互いが働きやすいように情報提供を行ったり連携を密にすることで、患者・家族に安心を与えることができるということを学ぶことができました。



パネリストの先生方

- ◆なす医院 院長 那須 英紀 先生
- ◆田辺薬剤師会 副会長 山下 真経 先生
- ◆訪問看護ステーションピースフル 管理者/訪問看護師 阪本 美栄子先生
- ◆田辺中央病院ケアプランセンター 管理者/主任介護支援専門員 岡崎 美加子先生
- ◆南和歌山医療センター 緩和ケア認定看護師 栄土 真由美先生

今回は、コロナ禍で色々制限のある中での、多数ご参加いただき誠にありがとうございました。

次回は、来年の2月26日（土）に地域医療連携カンファレンスの開催を予定しております。多数のご参加を心よりお待ちしております。

当院は心肺蘇生(BLS)教育に 力を入れています！

救命救急科 島 幸 宏

当院は救命救急センターを併設していることもあり心肺蘇生教育に力を入れています。皆様からすると「どこの病院でも当たり前じゃないの？」と思われるかもしれませんが、意外と病院ごとに温度差があります。私は当院に就職するまでに幾つかの病院で勤務しましたが心肺蘇生教育を30分で済ませている病院もありました。対象も新入看護職員のみであったり様々でした。

当院では病院主催で2020年9月から毎月AHA BLSインストラクターの資格を持つ3名の職員が中心となり4時間の正式なAHA BLSコースを開催しています。コースでは成人のみでなく小児・乳児の心肺蘇生、AEDについて学んでいます。コロナ禍で一度に多くの職員には受講してもらえませんが現在まで97名に受講してもらいました。職種も看護師が中心ですが医師、理学療法士、臨床工学士、薬剤師、管理栄養士も受講してくれています。少しでも安心して来院して頂けるように今後も続けていきます。

皆様もご家族・近い人が倒れたときに助けられるように消防署などでの受講をお考え頂ければ幸いです。

2021年54人（医師2名、看護師43名、理学療法士4名、臨床工学士2名、薬剤師2名、管理栄養士1名）

2020年43名（看護師43名）



編集後記

10月半ばから冷え込んできました。皆様体調等お変わりないでしょうか？

さて、秋といえば「食欲の秋」、「行楽の秋」、「スポーツの秋」、「読書の秋」等、いろいろ思い浮かびますが、昨年から「行楽の秋」は新型コロナウイルス感染症の影響で、楽しむことが出来ない状況が続いています。私もその分「食欲の秋」が充実してしまっている状況で、体重が大変なことになっています。ここは「スポーツの秋」で節制をしようかと考える次第です。

皆様の今年の秋はいかがでしょう？

庶務班長 酒 井 章 浩